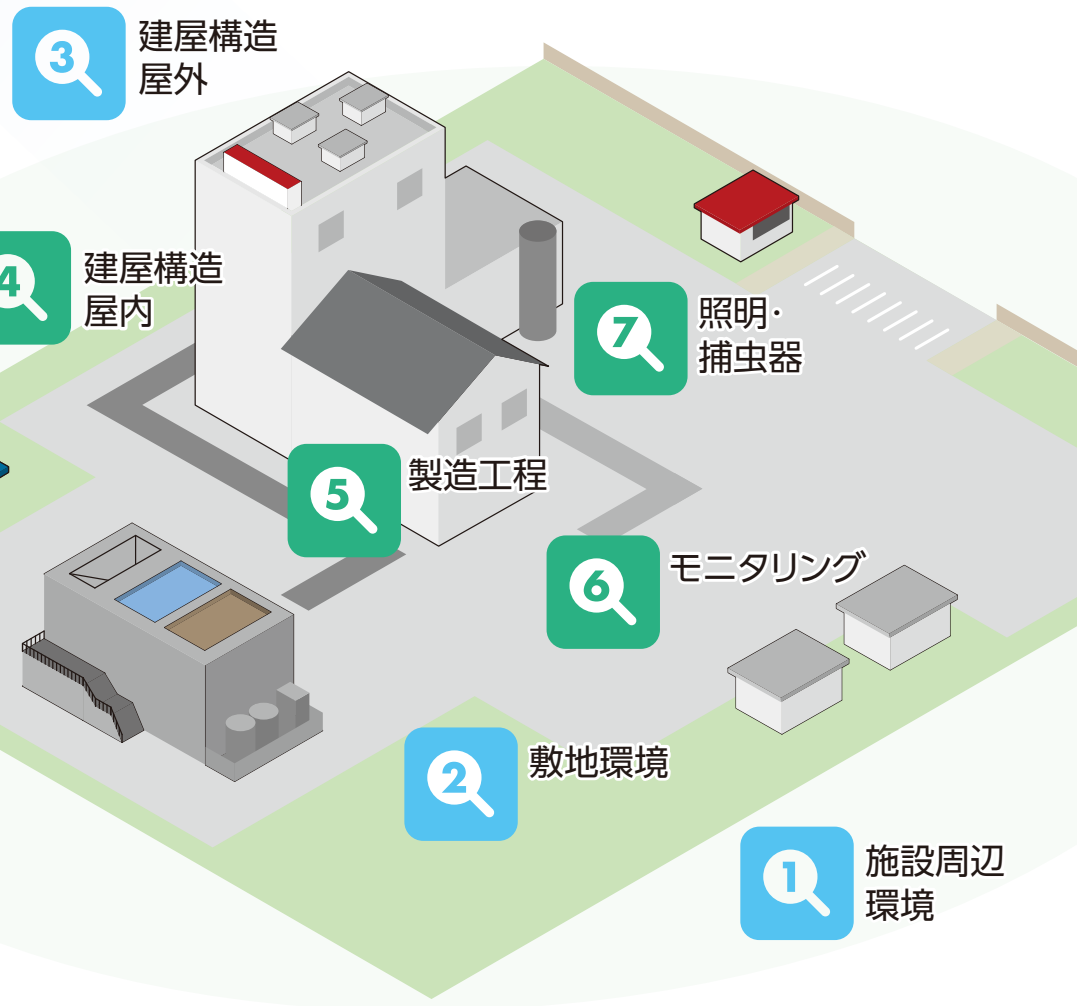


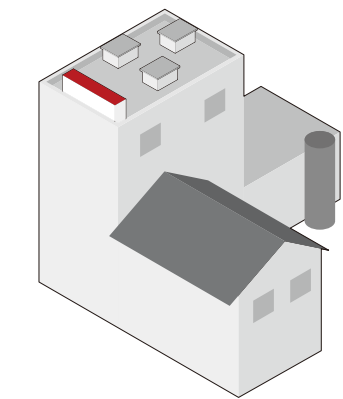
有害生物 **リスクナビ**[®]

竣工時は完璧に有害生物対策ができていた施設であっても、経年劣化やライン変更、増改築などによって、施設内の環境は変化するものです。

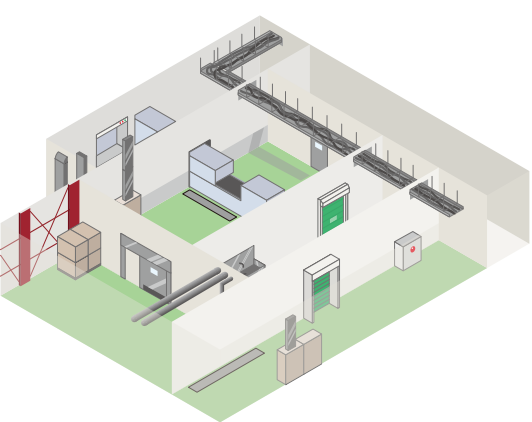
それらに伴って生じる、有害生物由来のさまざまなリスクを洗い出し、問題を未然に防ぐためのアドバイスをを行います。例えるなら施設の健康診断です。洗い出された問題点に対する効果的な改善策や、今後の方向性をご提案いたします。



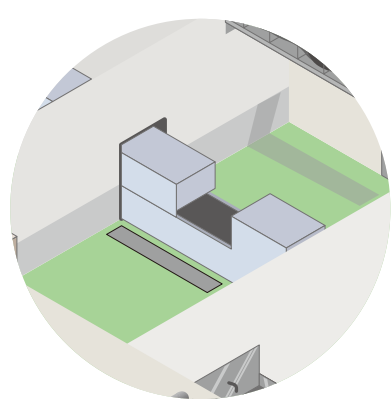
🔍 屋外調査項目



🔍 屋内調査項目



🔍 製造工程



環境・健康・生活の文化を創造する総合研究開発拠点 Life Creation Square ライフ・クリエーション・スクエア



Ikari Technical College イカリ テクニカル カレッジ

【Practical Training Room】【Conference Hall】
【微生物検査】【除染・消毒事業】

人材の育成や検査体制の拡充、基礎・応用研究開発といった目的で開設された施設。
高性能な機器や先端設備を完備しています。

LC環境検査センター

食品・環境に関わる検査事業の一大拠点です。
混入異物の鑑定、捕獲昆虫の測定、微生物検査、環境分析、食品分析まで幅広いイカリの技術が集約されています。

技術研究所

昆虫等を飼育・実験できる学術・開発研究のためのユニークな技術研究拠点です。

イカリライブラリー

イカリがこれまで歩んできた歴史を集めた資料館です。
過去の防除対策から、現在の無薬・無影響、そしてオンライン管理まで幅広く展示しています。

Engineering Center エンジニアリングセンター

商品開発・購買物流

数々のイカリオリジナル商品を生み出してきた開発部門と、イカリの現場を支える購買部門の拠点です。
開発された技術や商品は、常に時代のリーダーとなってきました。

IKARI イカリ消毒株式会社

本 社 | 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-11
TEL. 03-3356-6191 FAX. 03-3350-1405

大阪オフィス | 〒542-0076 大阪府大阪市中央区難波5-1-60
TEL. 06-6636-2741 FAX. 06-6636-2720

<https://www.ikari.co.jp/>

イカリ消毒
公式Web



イカリ消毒
公式Youtube



お問い合わせ先

このパンフレットに記載されている内容は2025年9月現在のものです

8237-2(25.10)KN

よりよい、つよく、ささえる。

IKARI

虫やネズミなどのリスクに備える！ 製造環境の健康診断



有害生物 **リスクナビ**[®]



イカリ消毒は製造環境の安心・安全のために、
有害生物による危害を予防するための総合調査で、さまざまな角度からリスクを分析します

異物混入防止対策をしているが、
やり残していることはないのか？

有害生物対策の
中期計画を立てたい

外部侵入性昆虫対策を
強化したい

防虫対策は
今のままで大丈夫？

セカンドオピニオンを受けたい

ネズミ対策は
今のままで大丈夫？

有害生物リスクナビ[®] 調査メニュー

調査メニューは全部で7つのタイプを用意。お客様の状況に合わせて必要な調査メニューを実施します。

1 施設周辺環境 ※1

施設周辺の半径1km範囲の環境や風向を分析し
飛翔性昆虫類の飛来リスクを数値化します。

河川・用水路
水域からはユスリカ類が発生し、光や気流
の影響で施設へ飛来します。

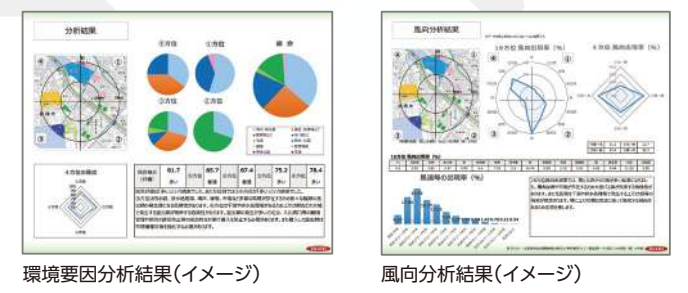
畑・水田
農作物や植物、土壌から発生する昆虫類が施
設へ侵入する危険性があります。

水処理施設、ゴミ処理場、畜舎など、昆虫類が発生する施設の有無や位置を考慮した調査を実施します。

※1:周辺環境リスクは机上調査です。目視によるリスク抽出はオプションです。

インセクトリスクナビ[®] リニューアル版

施設周辺1kmの周辺環境を調べることで、
どの方向にどのような昆虫類のリスクがあるのかを
分析します。
地図データと過去の風向データから飛翔性昆虫類の
飛来リスクを数値化します。



2 敷地環境 ※2

敷地内の発生源、環境要因、管理運用等の問題を調査し、発生・定着リスクを分析します。

キュービクル
電気設備にネズミが侵入すると短絡
事故を起こし製造が停止するリスク
があります。

ゴミ置場
臭気による誘引や、餌があると発生
源になるリスクがあります。

緑地・落葉
昆虫類の発生源やネズミの営巣箇
所になるリスクがあります。

排水処理施設、機械室等の付帯設備や不要物の放置など生息要因になるリスクを調査します。

3 建屋構造屋外 ※3

建屋外壁や屋上、床下からの侵入経路を調査し、侵入・定着リスクを分析します。

水切り
基礎と外壁の間にある水切りの下部
から昆虫類やネズミが侵入します。

給排気設備
稼働状況や防虫網の状況により昆
虫類が侵入するリスクがあります。

屋上ハト小屋
屋上のケーブル、配管導入部からゴ
キブリ類やネズミが侵入するリスク
があります。

建物接合部、鋼材貫通部、シャッター等からの侵入リスクを調査します。

4 建屋構造屋内 ※4

屋内の内壁、排水溝、天井裏等の問題を調査し、有害生物の移動リスクや定着リスクを分析します。

点検口
点検口の隙間から昆虫類が侵入し
たり、昆虫の死骸やネズミの糞等が
落下し混入するリスクがあります。

排水溝
排水溝が劣化し有機物が堆積すると
湿潤性昆虫類の発生源になります。

配管貫通部
壁に貫通した配管周囲の隙間から昆
虫類が侵入するリスクがあります。

施設内部への侵入箇所や発生源になる場所を調査します。

5 製造工程

製造工程、製造機器での有機物の発生や残渣の堆積、環境要因等を調査し、
定着・混入リスクを分析します。

製造機械
製造機械から出る残渣から昆虫類が発
生します。発生しやすい工程では、清掃
頻度や清掃方法の見直しが必要です。

持込要因
原料、包材などに付着して昆虫類や
ネズミが持ち込まれます。拡散防止
対策が必要です。

製造環境
餌、温度、湿度等の条件がそろると
昆虫類の定着箇所になり異物混入
に直結します。

製造工程ごとにリスクは異なります。異物混入防止を目的として、製造機器や製造環境で発生する昆虫類のリスクを調査します。

6 モニタリング

モニタリング設置ポイントや使用資材が適正であるかを調査し、
今後のモニタリングの改善を行う基とします。

トラップ不備確認
昆虫類の問題を早期に発見するた
めに歩行性昆虫類の生態に応じてト
ラップを設置する必要があります。

ネズミの種類や生態に応じたトラッ
プの使い分けや、捕獲されやすいポ
イントに設置する必要があります。

モニタリング結果簡易分析
必要に応じて過去データから捕獲傾
向を確認した上で点検を行います。

有害生物の生態に応じたトラップの設置状況、管理状況、害種、慢性的な問題点などを調査します。

7 照明・捕虫器

照明や捕虫器等の光源が飛翔性昆虫類の誘引に影響を与える箇所があるかを
虫の目カメラ等の機器を用いて調査します。

虫の目カメラ
紫外線画像(虫の目)では、紫外線が出ている照明は明るく映り、
出ていない照明は暗く映ります。これにより昆虫類の誘引リスクを調査します。

紫外線
紫外線画像(虫の目)では、紫外線が出ている照明は明るく映り、
出ていない照明は暗く映ります。これにより昆虫類の誘引リスクを調査します。

可視光
紫外線画像(虫の目)では、紫外線が出ている照明は明るく映り、
出ていない照明は暗く映ります。これにより昆虫類の誘引リスクを調査します。

捕虫器の光が、製造ラインに近い、反射しているなどの誘引混入リスクになる場所を調査します。

オプションメニュー

必要に応じて、さらに詳しい調査が必要な場合があります。
それに合わせたオプションメニューを用意しています。

生物分布総合調査

目視や各種トラップ調査により、敷地内外の
昆虫相と施設への影響を明らかにします。

調査手法	調査場所・方法	対象
目視	敷地内、周辺地域等	有害生物全般
トラップ	ライトトラップ ボルトトラップ 粘着トラップ ピットホールトラップ ケージトラップ等	飛翔性昆虫 飛翔性昆虫 歩行性昆虫 歩行性昆虫 ネズミ
生息確認	カメラ、センサー、 無毒餌喫食等	ネズミ、小動物

